

優良図書 ~子どもの心へ届けたい本~

※以下の対象区分は、それぞれの学齢のほか、それ以上の方にもお薦めできる図書となっています。

1 幼児以上対象

きょうりゅうたちもほんがよめるよ
 「どうしたらほんがすらすらよめるようになるのかな？」と考えたきょうりゅうが、本をバットのように振り回してみたり、いぬやねこにぶつけてみたりと大暴れ。おとうさんやおかあさんに見守られながら、読書について試行錯誤する様子を描いた一冊。

ジェイン・ヨーレン/文 マーク・ティグ/絵
 なかがわちひろ/訳
 株小峰書店 1,400円(税別)



たまたま たまご
 目の前に現れた見上げるような大きな卵をめぐって、ゴリラ、ワニ、ダチョウが何の卵なのか考えを巡らせている。そこへやってきた、ものしりのゾウから恐竜の卵という話を聞き、驚いたみんなが逃げ出そうとすると、卵が割れ始めて…。

内田麟太郎/文 北村裕花/絵
 文研出版 1,300円(税別)



2ひきのかえる
 出会った緑色のカエルと黄色のカエルは、互いの体色を貶して喧嘩をする。しかし北風に中断され、春に決着をつけようと言って冬眠に入る。冬眠から覚めた2匹は、池で泳ぐうちに、互いの美しさに気付いて仲直りをする。

にいみなんきち/作 しまだ・しほ/絵
 理論社 1,380円(税別)



ヒゲタさん
 ある雨の夜、チカちゃんが窓の外を見ると、黒々とした口ひげをはやした猫がいた。家に泊めてあげた翌日、猫にお礼を言われてびっくり。チカちゃんは、話ができるこの猫を「ヒゲタさん」と名付ける。ヒゲタさんからひげの国に誘われたチカちゃんは、つけひげを付けてひげの国に向かう。

山西ケンイチ/作・絵
 株徳間書店 1,600円(税別)



ベッドのなかはきょうりゅうのくに
 おやすみ前、男の子がベッドの中にもぐったら、そこには恐竜の世界へと続くトンネルが。迷子のランベオサウルスと出会った男の子は共に母親探しの旅に出る。様々な恐竜たちと出会いながら夜の不思議な世界を探検する。

まつおかたつひで/作・絵
 株童心社 1,400円(税別)



もりのかばんやさん
 はりねずみのハリハリは、森で大人気のかばんやさん。お店にないかばんでも、とっても素敵につくってくれる。そんなハリハリの仕事ぶりや、お店のそばのくもくんも、窓からやさしく見守ります。さて、次のお客さまは、どんなかばんをお望みなかな？

ふくざわゆみこ/作・絵
 株学研プラス 1,300円(税別)



わたしはだれ？ Who am I ?
 「わたしはだれ？」という問いに、「さわやかなかぜ」や「きよらかなもり」という答えと美しい世界が描かれた挿絵が続く。そこに突然、人間により破壊されたかなしみのまちやなげきのうみが現れる。美しいこの地球を守りたいと感じるきっかけとなる絵本。

ノーブスミー/さく・え
 出版ワークス 1,600円(税別)



幼児以上対象 計7冊

2 小学校低学年以上対象

うりぼうウリタ
 春から森の学校に通っているうり坊のウリタ。友達がたくさんできて毎日楽しくてたまらない。食いしん坊であわてんぼのウリタの一日は、ワクワドキドキの連続だ。さて今日はどんなことが起こるのか。友達が拾ってくれた落とし物の正体に驚いた、「ウリタのおとしもの」など4話からなる1冊。

おくやまゆか/作
 株偕成社 1,200円(税別)



消防署図鑑
 日本中で一年間にどのくらい火事が起きている？一日のうちでは何件くらい？ 火事の原因や起こりやすい季節・時間帯など、まずは「火事を知る」ことから始まり、私たちの暮らしの安心安全を守りながら、火事をなくすにはどうしたらよいかを考える。恐ろしい火事に立ち向かう消防署の仕事や取り組みを、川崎市の消防署を例に挙げ様々な面から紹介している。

梅澤真一/監修
 株金の星社 3,900円(税別)



かしこいうさぎのローズパッド
 ある日、1冊の本を見つけたうさぎのローズパッド。そこには、ウサギは「おくびょうで、すぐににげる」と書かれていた。ローズパッドは、はらを立てて本を投げ捨てる。すると何か物音が。驚きながらも音の方へ跳ねて行くと、大きなクジラと出会う。そこでかしこいローズパッドは、ある作戦を思いついた。はたしてうさぎは強いところを見せられるのか？

ルドウイヒ・ベームルマンズ/文・絵 小宮由/訳
 大日本図書株 1,400円(税別)



**子うしのきんじろう
いのちにありがとう**
 食用肉「黒毛和牛」を育てている小さな島の牧場で金色の毛の子うしが生まれた。黒毛じゃない子うしを島の人は殺処分するように言う。食用肉として生まれた命。黒毛じゃない子うしは不要となる命なのか。子うしの運命は…。

今西乃子/作 ひろみちいと/絵
 株岩崎書店 1,200円(税別)



コピーロボット

子どもの視線となって、日々の生活で感じた思いを表現した詩集。「I心を見つめて」には、未来への希望や家族・友達への思いをテーマとした19作品を収録。「IIちいさなはっけん」には身近な生き物や生活のひとこまに着目し、素朴な発見や素直な思いを表現した17作品を収録。いずれも見開き1ページの短く読みやすい作品である。

土屋律子/詩集 吉野晃希男/絵
銀の鈴社 1,600円(税別)



デイビッド・マックチャーバーと 29ひきの犬

デイビッド・マックチャーバーはあたらしい町に引っ越してきたばかり。まだ友達がなくて心細いデイビッドは、おかあさんからおつかいを頼まれる。お肉やソーセージを買った帰り道、デイビッドの背中にたくさん犬がついてきた。あつ、袋がやぶれてる！ そのうち、犬の行列に子どもも大人も、プラスチックまで加わって…。マーガレット・ホルト/文 ウォルター・ロレイン/絵 小宮由/訳 大日本図書(株) 1,400円(税別)



どうしてしんがたコロナになるの？

「やさしくわかるびょうきのえほん」シリーズ最新刊。「新型コロナウイルス感染症」について、2020年7月時点の情報をもとに、「新型コロナウイルス」とは何か、どうしてかかるのか、感染予防のための具体的な方法、免疫力をつけることの大切さ、コロナ禍での心がけ等がわかりやすい文章で綴られている。

松永展明/監修 せべまさゆき/絵
WILLこども知育研究所/編著
榎金の星社 1,300円(税別)



ねこの小児科医ローベルト

ねこの小児科医ローベルトは夜中の救急専門医である。今夜もバイクにまたがり、病気の子どもを元へ颯爽と駆けつけた。そして、鋭い嗅覚でどんな病気の確に診断し治してしまおう。彼はいったいどこから来て、どこへ帰ってゆくのか。ちょっと不思議でちょっと切ないお話。

木地雅映子/作 五十嵐大介/絵
榎啓成社 1,500円(税別)



めいたんていサムくん

小学2年生のサムくんは、推理が得意で「めいたんてい」と呼ばれている。サムくんの推理力の秘密は、においをかくと頭がさえる、空色のタオルハンカチ。身近に起こる難事件を、サムくんは今日も名推理で解決していく。

那須正幹/作 はたこうしろう/絵
榎童心社 1,100円(税別)



もののけまもる森

たくさん生きものたちにあえる森で、「ぼく」は不思議な音を耳にした。目の前には「ギョロ目」の何かが立っていて、ぼくを森へ導いた。森のあちこちでは、「もののけ」が、ぼくに話しかけてくる。「森の主である大きな木がおまえにはなしたがつているよ」という声を聞き、ぼくは大木に会いに行くと…

藤原幸一/写真・文
榎ポプラ社 1,700円(税別)



やまねこのこんには

森のおくのちいさな家に引越してきたやまねこは、ご近所さんと仲良くなるためにどんな挨拶をしようか考え中。歩いていたら、ご近所さんたちが自分を噂しているところを見かけてしまった。「新しくあの家に来た子がおしゃれな子だったらいいな。」「物知りな子だったらいいな。」「ぼくはおしゃれでも、物知りでもないと思ったやまねこは、みんなの期待とおりにするために大慌て。でも、慌てすぎたやまねこは…。はせがわさとみ/作 榎あかね書房 1,200円(税別)



ゆうき君の月探検

ゆうき君は家のまどから満月を見ているうちに、お月さまには本当にうさぎさんがいるのを知りたくなった。お月さまを追いかけて歩いていくと、小山の方に流れ星が落ち、ロケットが現れた。乗り込んだロケットは月に向かい、かくやと名乗る女の人と出会う。

ふたがみもとのぶ/著
静岡学術出版 1,200円(税別)



ゆめのかなえがた

「夢をあきらめないで」というメッセージを、作者の経験を元に語りかける絵本。夢につながる道は一つではなく、さまざまな選択肢があり、途中で夢が変わることもあるということ、成長に伴う心の変化を丁寧に追いつつ表現している。職業選択=夢の実現ではなく、自分がどうなりたいたいのかを考えながら、今を大切に生きることが、夢をかなえていく道りであるということ、をわかりやすく描いている。たかひよしかず/作 大日本図書(株) 1,400円(税別)



よるのまんなか

「よるのまんなか、みいんな みんな ゆめのなか。」そんな時間に目をさましたれいぞうこ、かまきりくん、みずたまり、あかちゃん、チュウリップの5つの物語。うちゅうのずかんを片手にさんぽにでかけたれいぞうこ、恋をした相手に「すきだ」といえず、昼夜逆転してしまったかまきりくんなど、ひるまとはちがう、まっくらな夜の時間の物語集。

おくはらゆめ/作・絵
理論社 1,200円(税別)



小学校低学年以上対象 計14冊

3 小学校中学年以上対象

あみちゃんの魔法のことは 夢をかなえる15の物語

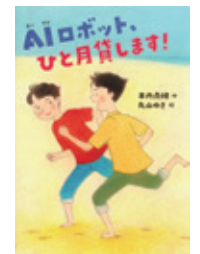
「あみちゃん」こと佐野有美さんは「手が全然なくて、足はちょっとだけ」の体で生まれた女の子。普段は車椅子に乗って生活をしているが、左足の三本指を使って字を書き、ご飯を食べ、メイクすることもできる。高校ではチアリーディング部に所属、その他にもモデル、CD発売など多彩な活動をしながら27歳で結婚。本書は、そんなあみちゃんの15のエピソードを通して、諦めなければ夢は叶うというメッセージを読者に伝える。ふじもとみさと/文 文研出版 1,400円(税別)



AIロボット、ひと月貸します！

両親と訪れた未来科学研究所のイベントで、10万人目の来場者となった小学4年生の栄太。所長の案内で、館内の展示を見学したり、最新の科学技術を駆使したアトラクションを体験したりと大満足。さらに、自分そっくりの分身AIロボットを、誰にも内緒で借りることになる。エイトと名付けたAIロボットとの1か月間の交流を描いた物語。

木内南緒/作 丸山ゆき/絵
榎岩崎書店 1,200円(税別)



男の子でもできること みんなの未来とねがい

世の中には家族や兄弟を支えるために学校に行かせてもらえない女の子がいる。世界の子どもたちが遊び、学び、働く姿を捉えつつ、性差による差別の問題を問いかける写真絵本。

国際NGOプラン・インターナショナル/文
金原瑞人/訳 上野千鶴子/解説
榎西村書店 1,600円(税別)



消えた落とし物箱

小学四年生の日菜乃たちは、国語の学習で新聞を作ることに。ところが、教材として校長先生から借りた学校の歴史の本が、落とし物箱に入ったまま消えてしまう。クラスメート五人が不思議な落とし物箱のゆくえを追いつつ、箱にまつわる歴史を解き明かしていく。

西村友里/作 大庭賢哉/絵
榎学研プラス 1,300円(税別)



銀の鈴 ものがたりの小径 いちばん

銀の鈴社創業30年の節目に企画された短編童話のアンソロジー。全国各地で児童文学を創作している方から「一番」をテーマに作品を募集し、「子どもにもわかる言葉で書かれた文学性の高い作品」を選定、プロの画家による挿絵で彩り、まとめられている。低学年向け3作品、中学年向け11作品、高学年向け8作品の計22作品が収録されている。
「ものがたりの小径」編集委員会
石谷洋子/作ほか21名 田沢利枝子/絵ほか21名
銀の鈴社 1,600円(税別)



細菌ホテル

女の子の体をホテルに見立て、大腸菌が案内役となり、体の中にある良い働きをする細菌、悪い働きをする細菌(病原菌)、そして病原菌と闘ってくれる免疫細胞、人間がつくり出した細菌とたたかう薬、抗生物質の役割・働きについて紹介している。

キム・ソンファ、クオン・スジン/文
キム・リョンオン/絵 猪川など/訳
岡田晴恵/日本語版監修
樹金の星社 1,400円(税別)



死んだかいぞく

ある晩、威張っていた海賊が船上で刺されて、海に落とされる。海底へ落ちていく間、海の生き物たちが次々に帽子や歯や爪や目をくれと言う。海賊は抵抗しようとしたが、体が動かず、持って行かれてしまう。やがて海賊は死を受け入れて、海の生き物たちに体を提供する。やがて海賊は…。

下田昌克/著
樹ポプラ社 1,400円(税別)



ぼくのあいぼうはカモノハシ

主人公のルフスはドイツで暮らす男の子。パパがオーストラリアに単身赴任中で、寂しい思いをしている。ある日、ルフスは動物園から逃げ出した喋るカモノハシのシドニーと出会う。ふるさにと帰りたいシドニーと、パパに会いたいルフス。二人は知恵を絞ってオーストラリアに行く方法を考える。

ミハエル・エングラール/作 はたさわゆうこ/訳
杉原知子/絵
樹徳間書店 1,400円(税別)



森のクリーニング店シラギクさん

森のクリーニング店のシラギクさんは、とびきり腕がいい。町の人も森の動物たちもお客さん。特別レシビの洗剤でどんな汚れも落とす。でも思い出のある汚れは残したっていい。それがシラギクさんのやり方。悩める動物たちの心の汚れをどう落とすのか。そして明かされるシラギクさんの素性とは。

高森美由紀/作 iyajya/絵
樹あかね書房 1,200円(税別)



ルビねこと星ものがたり

ルビは本の上に積もったほりから生まれた小さなねこ。<本屋 本の木>の看板ねこだ。ある夜、望遠鏡で星空をのぞきながら、白ねこのリリに勇気をもらったルビは、仲間のおねこたちの前で、苦手な高いところへのジャンプに挑戦する。「本屋さんのルビねこ」シリーズの3冊目。

野中柊/作 松本圭以子/絵
理論社 1,400円(税別)



小学校中学年以上対象 計10冊

4 小学校高学年以上対象

父さんが帰らない町で

戦争に行ったまま帰らない父を待つ、ジョーとウェイド兄弟の住む町にカーニバルがやってきた。この三日間の出来事を、弟ウェイドの視点で描く。父を待ち続ける日々閉塞感を感じる二人の目に、カーニバルの人々は自由の象徴に映った。しかし嵐の中をカーニバルに巻き込まれた二人は、命の危機にさらされて…。

キース・グレイ/作 野沢佳織/訳 金子恵/絵
樹徳間書店 1,400円(税別)



雷のあとに

小学5年生の睦子は、地味でさえない自分がおもしろくない。おまけに口うるさいお母さんが面倒くさく、亡くなったハルおじさんの家でひとり過ごす時間を大切にしている。重苦しい雰囲気漂う家にしんどくなった睦子は、ある日、飛び出すようにハルおじさんの家に向かう。そんな中、天気は荒れ、雷も鳴り、睦子を心配したお母さんとお兄ちゃん、そしてお父さんまでもがおじさんの家に来てきて…。

中山聖子/作 岡本よしろう/絵
文研出版 1,400円(税別)



故郷の味は海をこえて

日本で生きる7人の「難民」の現在の暮らしと、日本に来るまでの経緯を、写真とともに紹介。故郷の「食」を入口に、日本での苦労や、故郷に残してきた家族への思いなどが率直に語られる。難民に関する制度も、コラムや注でわかりやすく解説している。

安田菜津紀/著・写真
認定NPO法人難民支援協会/協力
樹ポプラ社 1,400円(税別)



信頼と情熱 10分で読める オリンピック・パラリンピック物語

オリンピック・パラリンピック。その夢の大舞台に臨んだものは、何を思い、どう闘ったのか。メダルを掴んだもの、惜しくも届かなかったもの、そして、大会を陰で支えたもの。時代や立場、種目や結果が違ってても、等しく称賛し、語りつくべき熱き魂の軌跡を紹介する。

大野益弘/編著
樹あかね書房 1,500円(税別)



ずっと見つめていた

主人公の越の一家は、越が中学に進学する年に、埼玉県から山梨県の南アルプス市に引っ越す。妹のつくみの化学物質過敏症の治療のため、田舎へ移住することになったのだ。母親は自然食を提供する食堂を開くが、地元住民に受け入れてもらえず、軌道に乗れない。越は、埼玉に住む親友から塾の夏期講習の誘いを受けたことで、これからの進路について悩み始める。

森島いずみ/作 しらこ/絵
樹成社 1,300円(税別)



世界の朝ごはん

小学生と高校生によって編成されたチームが、世界各国の朝ごはんを紹介。手軽に挑戦できるメニューから、少し手の込んだメニューまで、30種類のレシピとコラムを掲載している。

中野綾香、浅沼貴子、藤井花風、丹羽花蓮/著・編集
特定非営利活動法人Connection of the Children
1,000円(税別)



蝶の羽ばたき、その先へ

突発性難聴によって、突然片耳の聴力をほとんど失ってしまった中学二年生の結(ゆい)。家族以外誰にもそのことを告げられないまま、友人との会話や症状への不安を抱え日々をもどかしく過ごしていく。出口が見えない不安の中、彼女が出会ったのは、「手話」と同じ困難を抱える人々だった。

森楚こみち/作
樹小峰書店 1,400円(税別)



箱根のクラシックトレイン

箱根登山電車のうち、1950年代に作られた旧車両を四季折々の風景とともに紹介する写真集。スイッチバック、急勾配といった登山電車の特徴を伝える。各ページには、短いコメントが添えられている。また、撮影の様子や旧車両が見れる時間について書かれたコラム欄がある。さらに、2019年の台風19号で被災した登山電車の運休中・復旧後の様子も掲載。時刻表、撮影データなども収録。

千葉博信/著
神奈川新聞社 800円(税別)



**ブラジル 天使が舞い降りる村の
カノア保育園**
ブラジル北東部のカノア・ケブラダは、「天使が舞い降りる村」と呼ばれるほど美しい自然に恵まれている。一方で、少年少女による薬物使用や売春が社会問題となっていた。小学校を卒業できない子どもが多く、教育の機会も限られている現状を目の当たりにした日本人保育士は、現地に保育園を作ることを決意した。

鈴木真由美 / 著
 ㈱サンパティック・カフェ 1,700円(税別)



ぼくたちの緑の星
あこのろ小学生の「ぼく」は学校で「ゼンタイ・モクヒョウ」のために「ジュウゾク」することを求められていた。なぜか自分や家族、友達の名前を忘れ、好きだった先生やものが突然なくなるなど、つらい日々を送っていた。ある日公園で知らない町の地図を拾い、その持ち主と会うことで名前や大切なことを思い出していく。

小手鞠るい / 作 片山若子 / 絵
 ㈱童心社 1,300円(税別)



**ぼくらしく、おどる
義足ダンサー大前光市、夢への挑戦**
「おどりたい」、その気持ちを貫き通した大前光市の物語。とりえがなく、変わりたいと思っていた中学生のとき、学校での劇をきっかけに演劇の道へ。演劇、舞台、ダンスに出会いながら、プロのダンサーを目指すようになる。24歳のときに事故に遭い、左足ひざ下を切断。それでも、おどることをあきらめずにおどりつづけ、義足を活かしたダンスにたどり着く。

大前光市 / 著 今井ヨージ / 絵
 ㈱学研プラス 1,400円(税別)



小学校高学年以上対象 計 11 冊

5 中学生以上対象

鐘を鳴らす子供たち
終戦後、突然ラジオドラマに出演することになった小学生の良仁(よしひと)。様々な個性と出自を持つ子供たちがひとつの作品に取り組むことで、それぞれの世界が広がっていく。戦後放送され大好評を博した実在のラジオドラマ「鐘の鳴る丘」を題材に、戦後の風景を描いた作品

古内一絵 / 作
 ㈱小峰書店 1,600円(税別)



グレタのねがい 地球をまもり未来に生きる
2019年1月のダボス会議(世界経済フォーラム)ほかで、スウェーデンの少女、グレタ・トゥーンベリさんが気候変動や地球温暖化の問題を訴えたことは、全世界に大きな反響を呼び起こした。この本は、15歳のグレタがいかにして環境問題に目覚め、次世代の未来へ及ぼす影響を憂えて、「気候ストライキ」などの行動を起こすことになったかがつづられている。地球温暖化問題は、私たち一人一人が小さな行動を起こすことが大切だが、もはや政治的・世界的レベルで大人が関わっていく必要があると説いている。

ヴァレンティナ・キャメリニ / 著 杉田七重 / 訳
 増田ユリヤ / 解説 ㈱西村書店 980円(税別)



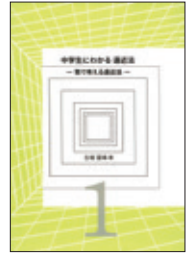
**さくらまつ -夜が明けたら-
SakuraMatsu:When the night finds the day**
遠い過去のある春の夜、巨大な嵐に突き飛ばされた風は、若い松の木に出会う。数十年の時が流れ、内側から朽ちて日に日に衰える松を救うため、風は松の洞の中に一粒の桜の種を落とす。芽吹いた桜はすくすくと成長し、「幹が松で枝が桜」の「さくらまつ」として可憐な花を咲かせるが、桜は松を苦痛から救うために、松は桜を自由にするために、風と嵐にある頼み事をする。

白石和己 / 著 岩崎 MARK 雄大 / 英訳
 銀の鈴社 1,500円(税別)



**中学生にわかる遠近法
一筒で考える遠近法**
ある日、はるきは夕焼け空に白く光るものが浮かんでいるのを見た。その夜、はるきはベッドに入ろうとすると、光が部屋に入ってきて、小人の形をとった。その小人は自分のことを「ミエモ博士」と名乗り、物の見え方の秘密、遠近法のしくみについて話し出した。

古根里峰 / 著
 MK工房 1,900円(税別)



万葉と令和をつなぐアキアカネ
万葉の時代から日本の空を飛ぶアキアカネ(赤トンボ)は、令和の現代で激減している。しかし、著者は新潟のとある田んぼで大量発生していると知る。田んぼのコメ作りの方法にアキアカネ大量発生謎を解く鍵があるようだ。アキアカネの羽化ができる田んぼとできない田んぼの違いから、自然環境を考える。

山口進 / 写真・文
 ㈱岩崎書店 1,300円(税別)



中学生以上対象 計 5 冊

令和3年1月29日推薦優良図書 計 47 点

神奈川県児童福祉審議会では、青少年の皆さんに読んでいただきたい本の推薦を行っています。
 (令和3年1月29日推薦)
 心の成長期にある青少年が優良な図書に触れることは、とても大切なことです。
 青少年に勧めていただく際の参考としてご活用ください。

神奈川県児童福祉審議会の審議にあたり、神奈川県読書推進会には情報提供をお願いし、
 県立図書館には予備調査を実施していただくなど、ご協力いただきました。